

平成23年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見概要	対応方針	事業方針概要	
						採択年	総事業費	進捗率							事業進捗内容
							うち工事費	進捗率							
							目標年	うち用地費							
道路事業	1	一般国道477号	四日市市、菟野町	③	<p>【全体事業概要】 延長 9,000m 幅員 22.0(36.0)m</p> <p>主要構造物 東名阪アンダー工 橋梁工 3橋</p> <p>【事業目的】 南北に走る高速交通を補完し、四日市市街地や東名阪自動車道と新名神高速道路菟野ICの連絡を強化、現道の渋滞の緩和を図る</p>	H9	39,000	67%	<p>整備済延長 L=1,600m</p> <p>うち供用済延長 L=220m</p> <p>主要構造物(整備済) 東名阪アンダー工 橋梁工 1橋</p>	平成30年度の新名神高速道路の全線供用予定や現道の渋滞状況から当事業の必要性に変化はない。	<p>【費用対便益分析】 B/C=1.5</p> <p>【コスト削減】 高角インター橋、吉沢橋において、耐候性鋼材を使用し、維持管理費の削減に努めている。</p> <p>【代替案の検討】 事業の進捗状況や周辺の地形・土地利用状況から代替案はない。</p>	平成25年度の高角インターチェンジから県道四日市菟野大安線までの供用を目指す。 また、平成30年度の新名神高速道路の供用にあわせた全線供用を目指す。	<p>事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。 ただし、該当事業が周辺地域へ及ぼす影響、特に防災面の影響について適切な評価に努められたい。</p>	継続	<p>今回の再評価対象事業は、交通渋滞や道幅が狭く線形も悪いなどの通行上の支障を解消し、安全で円滑な通行の確保をしようとするものであることから、早期に整備が必要です。 道路の整備にあたり、防災など周辺地域への影響などを的確に把握する必要があります。 道路は、交通機能のほか、市街地の形成、防災などの多面的な機能を有することから、有効に利用できるように、関係市町と連携する必要があります。</p> <p>今後の事業執行については、引き続き市町や地元関係機関との連携をはかり、早期完成に向けて計画的で効率的な事業執行に努めます。 道路の整備にあたっては、周辺地域への影響などの的確な把握に努めます。 道路の持つ多面的な機能を有効に利用できるように、関係市町との連携に努めます。</p>

平成23年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討 等	今後の事業の見通し	委員会意見概要	対応方針	事業方針概要	
						採択年	総事業費	進捗率							事業進捗内容
							うち工事費	進捗率							
							目標年	うち用地費							
道路事業	2	一般国道260号	南伊勢町	③	<p>【全体事業概要】 延長 3,470m 幅員 6.0(11.0)m</p> <p>主要構造物 トンネル工 2本</p> <p>【事業目的】 幅員狭小や線形不良の区間を解消し、安全で円滑な交通の確保を図るとともに、緊急輸送道路としての機能の強化を図る。</p>	H4	5,500	74%	<p>整備済延長 L=1,780m</p> <p>うち供用済延長 L=1,100m</p> <p>主要構造物(整備済) トンネル 1本</p>	<p>当該路線は、行政機能を分担する旧各町役場を結ぶ唯一の幹線道路であり、緊急輸送道路の指定を受けていることなどから、当該事業の必要性に変化はない。</p>	<p>【費用対便益分析】 B/C=1.6</p> <p>【コスト削減】 トンネル照明は、最新の照明器具を導入し、建設コスト・維持コストの削減を図る。</p> <p>【代替案の検討】 事業の進捗状況や周辺の地形・土地利用状況から、代替案ない。</p>	<p>平成29年度の全線供用に向け事業を推進する。</p>	<p>事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。ただし、災害時における活用について南伊勢町とともに対応されたい。</p>	<p>継続</p> <p>今回の再評価対象事業は、交通渋滞や道幅が狭く線形も悪いなどの通行上の支障を解消し、安全で円滑な通行の確保をしようとするものであることから、早期に整備が必要です。 道路の整備にあたり、防災など周辺地域への影響などを的確に把握する必要があります。 道路は、交通機能のほか、市街地の形成、防災などの多面的な機能を有することから、有効に利用できるように、関係市町と連携する必要があります。</p> <p>今後の事業執行については、引き続き市町や地元関係機関との連携をはかり、早期完成に向けて計画的で効率的な事業執行に努めます。 道路の整備にあたっては、周辺地域への影響などの的確な把握に努めます。 道路の持つ多面的な機能を有効に利用できるように、関係市町との連携に努めます。</p>	
						H29	890	95%							

平成23年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト縮減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見概要	対応方針	事業方針概要			
						採択年	総事業費	進捗率							事業進捗内容		
							うち工事費	進捗率									
						目標年	うち用地費	進捗率									
3	3	長島港海岸(海岸高潮対策事業)	紀北町	③	<p>【全体事業概要】</p> <p>[中ノ島地区] 護岸補強:1,180m</p> <p>[呼崎名倉地区] 堤防補強・改良:1180m 離岸堤:300m (100m×3基)</p> <p>[西長島地区] 堤防補強:743m 陸閘改良:2基</p> <p>【目的】</p> <p>当海岸の護岸・堤防は、昭和28年の13号台風や昭和34年の伊勢湾台風による災害後築造されたものであり、老朽化が著しく、台風時などには、堤防を越流した海水が背後地の道路や家屋に降り注ぐといった被害が生じています。</p> <p>当該事業は、護岸、堤防の補強改良を行うことにより、波浪や高潮等による災害を防除し、堤防背後の生命と財産を守ることが目的としている。</p>	H2	3,998	74.3%	<p>【整備済み内容】</p> <p>[中ノ島地区] 護岸補強:564m</p> <p>[呼崎名倉地区] 堤防補強:550m 離岸堤:300m (100m×3基)</p> <p>[西長島地区] 堤防補強:743m 防潮扉動力化:2基</p>	<p>各地区とも防護区域は、依然として人家が密集しており、防護の必要性に変化はありません。</p> <p>今年の7月に発生した台風6号によっても、堤防を越流した海水が背後の道路に降り注ぐといった被害が報告されています。また、今年3月に発生しました東日本大震災により、多くの住民が津波防災に対して関心を持つ中、当地区においても東海、東南海、南海地震発生が危惧され、津波による甚大な被害が想定されるため、護岸、堤防の補強改良の必要性及びその機運は一層高まっています。</p>	<p>【費用対効果分析】</p> <p>[中ノ島地区] B/C=23.2 [呼崎名倉地区] B/C=19.5 [西長島地区] B/C=26.6 [全体] B/C=21.5</p> <p>【コスト縮減】 呼崎名倉地区のうち名倉地区において、高潮や高波に対する防護方式を再検討し、より安価な方式に変更が可能となったため、大幅な事業費の縮減が図られました。</p> <p>また、中ノ島地区においても、計画時において出来るだけ既存施設を有効に活用することや、各施設を細分化し、より経済的な断面を採用するなど、設計時において可能な限りコストの縮減に取り組んでいます。</p> <p>【代替案】 呼崎名倉地区のうち名倉地区において、当初の計画通りに離岸堤を整備することにより浸水被害を防ぐ面的防護の案が挙げられますが、当地区では地形条件等から、より経済的な堤防の高上げによる線的防護が可能であるため、今回見直した線的防護を進めることが妥当であると判断しています。</p>	<p>厳しい財政状況の中、2地区への同時投資は事業の停滞を招くことが想定されることから、現在では1地区に集中投資することにより効率化を図っています。</p> <p>先ず熊野灘に直接面し海気象条件的に最も厳しい呼崎名倉地区について、最優先地区として位置付け、平成25年の完成を目指します。中ノ島地区については、現在残っている湾奥部の整備を平成25年度より再開し、平成36年度の完成を目指します。</p>	<p>事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。</p> <p>ただし、今年3月に発生した東日本大震災により、多くの県民が津波防災対策に対して関心を持つ中、当地区においても東海、東南海、南海地震発生が危惧されることから、関係部署および関係市町と連携し災害時の避難などソフト対策を含めた総合的な施策を進められたい。</p>	<p>海岸保全施設であらゆる津波を防ぐことは困難です。このため津波被害軽減のためには、沿岸市町の行う避難計画の策定などの避難対策と連携したソフト対策が重要となっています。</p> <p>また、津波の来襲時には、海岸保全施設が機能していない場合、浸水区域が増加するので、地震や津波に対する機能確保が課題となっています。</p> <p>海岸保全施設が機能すれば、被害を軽減させることが出来るため、既存施設の老朽化対策及び耐震対策を進めます。</p> <p>これにより、「最大クラスの津波」が来襲時にも、粘り強く施設が機能することで、少しでも津波の到達を遅らせることや浸水区域を軽減することができます。</p> <p>また、沿岸市町の行う避難対策と連携し、避難時間を確保するため陸閘の動力化、堤防への津波注意啓発看板、避難階段設置等のソフト対策を進めます。</p>			
					S	3,998	74.3%	<p>【次年度以降の内容】</p> <p>[中ノ島地区] 護岸補強:616m</p> <p>[呼崎名倉地区] 堤防改良:480m</p>									
					H36	-	-										

継続

平成23年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見概要	対応方針	事業方針概要	
						採択年	総事業費	進捗率							事業進捗内容
							うち工事費	進捗率							
						目標年	うち用地費	進捗率							
海岸事業	4	千代崎港海岸(海岸浸食対策事業)	鈴鹿市	③	<p>【全体事業概要】</p> <p>離岸堤:1150m (120m×7基, 170m×1基 70m×2基)</p>	H4	2,765	81.0%	<p>【整備済み内容】</p> <p>離岸堤:890m</p> <p>【次年度以降の内容】</p> <p>離岸堤:260m</p>	<p>【社会的状況の変化】</p> <p>当該地域は、伊勢湾に面し、工業、漁業等が盛んなだけでなく、国道23号、近鉄等で名古屋方面と直結しており交通至便で、人口が集中しています。防護区域についても、依然として人家が密集しており防護の必要性に変化はありません。また、住民の防災意識の高まりから、安心して生活の出来る環境の実現のために以前と変わらず事業の必要性は高いものがあります。</p>	<p>【費用対効果分析】</p> <p>B/C=3.1</p> <p>【コスト削減】</p> <p>背面の沖防波堤の延伸や南側に港湾施設が造成されたことなどから、当海岸南端部分において堆砂が見られました。この堆砂により、越波の軽減や護岸基礎の安定が見込まれることから、離岸堤の整備範囲を再検討し、その結果、約230百万円のコスト削減が可能となりました。</p> <p>【代替案】</p> <p>侵食により越波が生じる海岸の場合、近年の海岸整備においては、高波浪を強制的に砕波させる工法を組み合わせる面的防護が最適とされている。離岸堤は堆砂効果についても期待できることから、当海岸においては代替案は考えられず、現在の進捗状況及びその効果からみても現計画を進めることが妥当であると判断しています。</p>	<p>【今後の見通し】</p> <p>今後も厳しい財政状況になると予想されますが、引き続き事業の進捗を図り平成28年度の完成を目指します。</p>	<p>事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。ただし、今年3月に発生した東日本大震災により、多くの県民が津波防災対策に対して関心を持つ中、当地区においても東海、東南海、南海地震発生が危惧されることから、関係部署および関係市町と連携し災害時の避難などソフト対策を含めた総合的な施策を進められたい。</p>	継続	<p>海岸保全施設であらゆる津波を防ぐことは困難です。このため津波被害軽減のためには、沿岸市町の行う避難計画の策定などの避難対策と連携したソフト対策が重要となっています。</p> <p>また、津波の来襲時には、海岸保全施設が機能していない場合、浸水区域が増加するので、地震や津波に対する機能確保が課題となっています。</p>
					<p>【目的】</p> <p>土砂供給の減少により、海浜は年々侵食され、台風や低気圧の通過時には背後地への飛沫が生じています。このため、離岸堤の整備により波浪や高潮等による災害を防除し、堤防背後の生命と財産を守ると共に、海岸侵食の進行を防止することを目的としている。</p>	S	2,765	81.0%				<p>海岸保全施設が機能すれば、被害を軽減させることが出来るため、既存施設の老朽化対策及び耐震対策を進めます。これにより、「最大クラスの津波」が来襲時にも、粘り強く施設が機能することで、少しでも津波の到達を遅らせることや浸水区域を軽減することができます。</p> <p>また、沿岸市町の行う避難対策と連携し、避難時間を確保するため陸間の動力化、堤防への津波注意啓発看板、避難階段設置等のソフト対策を進めます。</p>			
						H28	-	-							

平成23年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見概要	対応方針	事業方針概要	
						採択年	総事業費	進捗率							事業進捗内容
							うち工事費	進捗率							
								うち用地費							
街路事業	5	松阪公園大口線外1線	松阪市	②	<p>【全体事業概要】 延長 L=820m 幅員 W=16.0m 鉄道立体交差化(アンダーパス)</p> <p>【事業目的】 鉄道交差の立体化により踏切を解消し、安全で円滑な交通の確保を図るとともに、緊急輸送道路の機能強化を図る。</p>	H14	9,600	70%	仮設道路供用済み 鉄道立体交差部の施工中	当該路線は、沿線地域の生活に欠かせない道路であるとともに、緊急輸送道路の指定を受けていることなどから、当該事業の必要性に変化はない。	【費用対便益分析】 B/C=1.1 【コスト削減】 最新の照明器具を導入し、建設コスト・維持コストの削減を図る。 【代替案】 事業の進捗状況及び費用対効果分析結果から、代替案はない	平成26年度的全線供用に向け事業を推進する。	事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。	<p>本事業は、鉄道部分をアンダーパスさせる計画であり、アンダーパス部は周辺道路路面より低くなるため、降雨時の冠水対策が必要になります。</p> <p>アンダーパス部の冠水対策については、ポンプ排水を計画しており、ポンプ故障時の対応として予備のポンプも設置予定です。また、万一冠水した場合には、アンダーパス入口に冠水した旨を示す表示盤の設置及び、冠水情報が建設事務所に入るようにすることで道路利用者の安全確保に努めます。</p>	
						〃	5,501	50%							
						H26	4,099	97%							